（別紙様式4）

令和8年11月14日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校岡山自動車大学校	昭和61年11月4日	原田　公徳	〒　719-0252 （住所）　岡山県浅口市鴨方町六条院中2045 （電話）　0865-44-7700
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人第一原田学園	昭和49年4月1日	原田　一成	〒　719-0252 （住所）　岡山県浅口市鴨方町六条院中2069 （電話）　0865-44-3100

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	二級自動車整備科	平成19(2007)年度	-	平成28(2016)年度

学科又は専攻科の目的	二級自動車整備士に必要な知識、技術を教育し、実践的な能力を備えた有能な二級自動車整備士を養成することを目的とする。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	二級ガソリン自動車整備士（実技試験免除）、二級ジーゼル自動車整備士（実技試験免除）、危険物取扱者乙種第4類、中古自動車査定士、 ガス・アーク溶接技能講習終了証、損害保険代理店初級（基礎・自動車）、低圧電気取扱業務、ソーシャル検定（中級・上級）

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総時間数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	1,889　時間	880 時間	時間	1,496 時間	時間	時間

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
60 人	57 人	0 人	0 %	2 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	30	人
■就職希望者数 (D)	30	人
■就職者数 €	30	人
■地元就職者数 (F)	28	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	93	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

なし

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

岡山トヨペット㈱、トヨタカローラ岡山㈱、ネッツトヨタ岡山㈱、ネッツトヨタ山陽㈱、岡山ダイハツ販売㈱、㈱岡山マツダ、スバル中四国㈱、岡山日野自動車㈱、いすゞ自動車中国四国㈱、岡山三菱ふそう自動車販売㈱、東京海上日動調査サービス㈱、広島トヨタ自動車㈱、広島トヨペット㈱、ネッツトヨタ広島㈱、カーポート佐々木、広島日野自動車㈱、㈱ヤナセ中国四国営業本部、大阪ダイハツ販売㈱、㈱ヤナセ近畿営業本部

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://www.okajidai.com/02department/secondclass.php

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総時間数		2,376 時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の時間数	16 時間
	うち企業等と連携した演習の時間数	0 時間
	うち必修時間数	1,889 時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の時間数	16 時間
	うち企業等と連携した必修の演習の時間数	0 時間
	（うち企業等と連携したインターンシップの時間数）	16 時間

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	6 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	4 人
計		10 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	8 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年10月6日　10:30～11:30　/　第2回　令和8年3月26日　14:00～15:00
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
原田　公徳	岡山自動車大学校　校長	令和7年7月1日～ 令和9年6月30日（2年）	－
天野　玲雄	岡山自動車大学校　教務課長	令和8年7月1日～ 令和10年6月30日（2年）	－
合田　健吾	岡山自動車大学校　学生課長	令和8年7月1日～ 令和10年6月30日（2年）	－
三原　泰雄	岡山自動車大学校　3年担任	令和7年7月1日～ 令和9年6月30日（2年）	－
髙橋　治	岡山自動車大学校　1年学年主任	令和7年7月1日～ 令和9年6月30日（2年）	－
赤木　晴彦	一般社団法人　岡山県自動車整備振興会　事業部係長	令和8年7月1日～ 令和10年6月30日（2年）	①
片山　貴志	岡山トヨタ自動車株式会社　管理本部経営管理室 総務グループマネージャー	令和8年3月1日～ 令和10年2月29日（2年）	③
太田　賢志	岡山トヨタ自動車株式会社　人事グループ　マネージャー	令和8年3月1日～ 令和10年2月29日（2年）	③
松岡　正志	岡山ダイハツ販売株式会社　人事部	令和8年7月1日～ 令和10年6月30日（2年）	③
水野　正和	岡山ダイハツ販売株式会社　人事部課長	令和8年7月1日～ 令和10年6月30日（2年）	③
森　秀樹	おかやま山陽高等学校　自動車科	令和7年7月1日～ 令和9年6月30日（2年）	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
自動車整備作業	4.【校外】企業等が主催するインターンシップ等（学科が主体的に企画していないものを指す。）	二輪自動車・ガソリンエンジン・ジーゼルエンジン・シャシ・電装・故障原因探求	岡山トヨペット㈱、トヨタカローラ岡山㈱、ネッツトヨタ岡山㈱、岡山ダイハツ販売㈱、㈱岡山マツダ、岡山日野自動車㈱、広島トヨタ自動車㈱、広島トヨペット㈱他（計19社）

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)認定専門課程等の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

岡山自動車大学校教職員研修規程により、教職員の実務に関する知識並びに指導力の修得・向上等に組織的に取り組むことが定められている。研修計画は校務部により主管し、計画を策定し校長へ答申する。教職員は各種研修に対して参加する義務を負う。また、職業教育を実践するため、企業等と連携し教育能力を高める取り組みを組織的に行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「整備主任者技術研修会」	連携企業等:	一般社団法人岡山県自動車整備振興会
期間:	令和7年8月21日(月)	対象:	整備主任者選任教員(令和7年度 天野)
内容	自動車の新機構、装置の機能・構造(学科)。オートエアコンの構造・機能及び故障診断(実習)		
研修名:	「自動車検査員研修会」	連携企業等:	中国運輸局 岡山運輸支局
期間:	令和7年10月1日(水)	対象:	整備主任者選任教員(令和7年度 天野)
内容	自動車検査業務に係る実務と法令研修		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「自動車整備技術講習」	連携企業等:	一般社団法人岡山県自動車整備振興会
期間:	令和7年4月13日(日)	対象:	振興会より派遣依頼のあった教員(令和7年度 中塚)
内容	二種養成施設自動車整備技術講習の講師		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「整備主任者技術研修会」	連携企業等:	一般社団法人岡山県自動車整備振興会
期間:	令和8年8月20日(木)	対象:	整備主任者選任教員(令和8年度 天野)
内容	自動車の新機構、装置の機能・構造(学科)。PHEVの車載充電装置の点検・診断(実習)		
研修名:	「自動車検査員研修会」	連携企業等:	中国運輸局 岡山運輸支局
期間:	令和8年10月2日(金)	対象:	整備主任者選任教員(令和8年度 天野)
内容	自動車検査業務に係る実務と法令研修		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「自動車整備技術講習」	連携企業等:	一般社団法人岡山県自動車整備振興会
期間:	令和8年4月12日(日)	対象:	振興会より派遣依頼のあった教員(令和8年度 中塚)
内容	二種養成施設自動車整備技術講習の講師		
研修名:	「人権教育研修会」	連携企業等:	(有)ヒューマンギルド
期間:	令和8年10月20日(火)	対象:	専任教員
内容	アドラー心理学を活用した学生を勇気づける教師の対応		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
森　秀樹	おかやま山陽高等学校　自動車科	令和7年7月1日～ 令和9年6月30日(2年)	関係施設
赤木　晴彦	一般社団法人　岡山県自動車整備振興会　事業部係長	令和8年7月1日～ 令和10年6月30日(2年)	業界団体
片山　貴志	岡山トヨタ自動車株式会社　管理本部経営管理室 総務グループマネージャー	令和8年3月1日～ 令和10年2月29日(2年)	関連企業
太田　賢志	岡山トヨタ自動車株式会社　人事グループ　マネージャー	令和8年3月1日～ 令和10年2月29日(2年)	卒業生
松岡　正志	岡山ダイハツ販売株式会社　人事部	令和8年7月1日～ 令和10年6月30日(2年)	関連企業
水野　正和	岡山ダイハツ販売株式会社　人事部課長	令和8年7月1日～ 令和10年6月30日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	―
公表URL	https://www.okajidai.com/00top/syllabus.php		
公表時期	令和8年11月14日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	―
公表URL	https://www.okajidai.com/00top/syllabus.php		
公表時期	令和8年11月14日		

授業科目等の概要

	（工業専門課程 二級自動車整備科）														
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位時間数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英語	英会話を学習する	1通	34	○			○			○	
2	○			社会学	社会学入門として、集団生活の基本を学習する	1通	34	○			○		○		
3	○			販売理論	自動車販売の理論と実際について学習する	1通	34	○			○		○		
4	○			進路指導	就職活動指導・ビジネスマナーを習得する	1後	15	○			○		○		
5	○			体育	ゴルフ	1前	15	○			○		○		
6	○			自動車工学 二輪自動車	二輪自動車の構造、機能、四輪との相違などについて学習する	2後	32	○			○		○		
7	○			自動車工学 ｶﾞｿﾘﾝ・ｴﾝｼﾞﾝ	ｶﾞｿﾘﾝｴﾝｼﾞﾝの構造と作動、燃焼の仕組みについて学習する	1前	32	○			○		○		
8	○			自動車工学 ｼﾞｰｾﾞﾙ・ｴﾝｼﾞﾝ	ｼﾞｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝの成り立ち、構造・機能・作動を学習する	1後 2前	64	○			○		○		
9	○			自動車工学 シャシ	自動車シャシ構成部品の構造、役割を学習する	1通 2通	83	○			○		○		
10	○			自動車工学 自動車数学	自動車工学で必要な計算力を習得する	1前	32	○			○		○		
11	○			自動車工学 自動車力学	力・速度・圧力・仕事などの基本学習をする	1通	64	○			○		○		
12	○			自動車工学 電気理論	電気回路の基礎と計算方法を学習する	1前	32	○			○		○		
13	○			自動車工学 電子理論	電気回路の計算と半導体に関する内容を学習する	1後	32	○			○		○		
14	○			自動車工学 材料	自動車に使用されている材料を学習する	2後	17	○			○		○		
15	○			自動車工学 燃料・潤滑剤	自動車に使用されている燃料と潤滑油について学習する	1後	17	○			○		○		
16	○			自動車工学 図面	三角法での図面の作り方と三角法から立体図の作り方を学習する	1後	17	○			○		○		
17	○			自動車整備 エンジン	潤滑・冷却等各装置の働きを学習する	1後 2前	64	○			○		○		
18	○			自動車整備 シャシ	自動車シャシ構成部品の構造と整備方法を学習する	2通	64	○			○		○		
19	○			自動車整備 電装	エンジン電装、ボディ電装に分けてその構造作動を学習する	2通	64	○			○			○	
20	○			自動車整備 故障原因探求	故障原因の探求方法について学習する	2通	34	○			○		○		

21	○			機器の構造取扱 整備作業機器	一般整備作業機器の使用法、保守管理を学習する	1前	9	○			○		○		
22	○			機器の構造取扱 測定機器	精密測定具の使用法、保守管理を学習する	1前	8	○			○		○		
23	○			機器の構造取扱 検査機器	検査に関する機器の取扱を学習する	2通	23	○			○		○		
24	○			自動車検査	道路運送車両法について学習する	2通	26	○			○		○		
25	○			自動車整備に関する 法規	道路運送車両法・道路運送車両の保安基準について学習する	2通	34	○			○		○		
26	○			工作作業 (手仕上機械)	ﾄﾞﾘﾙ、ﾔｽﾘ等を使用、加工技術を学習する ｶﾞｽ、ｱｰｸ溶接技術を習得する	1前	30			○	○		○		
27	○			測定作業 (基本計測)	基本的な測定器具を用いた作業方法を習得する	1前	60			○	○		○		
28	○			自動車整備作業 二輪自動車	二輪自動車の分解・測定・組付、電装・駆動、ブレーキ系の点検調整を学習する	1通 2通	186			○	○		○		
29	○			自動車整備作業 エンジン (ガソリン)	脱着・分解・組付による構造作動、実車による故障探求を学習する	1通 2通	308			○	○		○		
30	○			自動車整備作業 エンジン (ジーゼル)	ｼﾞｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝについて本体の分解組立方法および内部構造の把握と燃料噴射装置の内部構造作動を学習する	1後 2通	238			○	○		○		
31	○			自動車整備作業 シャシ	自動車シャシ構成部品の脱着や分解・点検・整備方法を学習する	1通 2通	318			○	○		○		
32	○			自動車整備作業 電装	電源、始動装置、充電装置、点火装置、灯火装置に関する内容を学習する	1通 2通	254			○	○		○	○	
33	○			自動車整備作業 故障原因探求	機械的故障、電気的故障を探求するための点検方法等を学習する	2後	34			○	○		○		
34	○			自動車検査作業	自動車検査機器等を使用し、検査の方法を学習する	2後	68			○	○		○		
合計					34 科目		2376 時間								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	所定の科目をすべて終了したときとする	1学年の学期区分	2 期
履修方法：	学科及び実習	1学期の授業期間	17 週